

丹波の森・里山見学ツアー企画運営業務
実施報告書

丹波の里山づくり促進事業実行委員会

1) 企画内容

① 見学ツアーのコンセプト

丹波地域での今後の森づくりを活性化していくために、本見学ツアーに参加する方々が山林の現状を視察するだけでなく、搬出した木材の有効利用や“地域材”としてブランディングするための現場も知ることが大事だと考える。

今回のツアーにおいては、丹波地域の人工林・二次林を視察する他に、原木市場や木の駅、製材所、加工所なども見学し、川上から川下までの生産・流通の過程を学んでいただけるようにする。

また、このツアーを通じて参加者同士が交流できる場を随所に設けることで、里山ファンとしての新たなコミュニティ形成を図り、今後兵庫県が進める「丹波の森構想」や「30年後の森づくり」に何かしらの形で参画もしくは意見のフィードバックができるようにする。

② 参加対象

- 丹波篠山や阪神間地域に在住の方20名程度
- 森づくりや山林資源の活用に興味のある方
- 木材利用に関わる事業者の方 など

③ ツアー内容（タイムテーブル）

※ 次ページ参照

【ツアー工程表(案)】

時間	集合・視察先	内容	案内人
7:00	神戸・三ノ宮集合		
8:00	JR篠山口駅集合		
9:00-10:00	丹波の森公苑	丹波の森公苑の施設・取り組み説明 人工林の視察(現状と課題)	土井英樹氏(丹波の森公苑)
10:00-10:15	丹波林産振興センターに移動		
10:15-11:00	丹波林産振興センター	競りの見学 原木丸太から見る材の特性について説明	高橋隆治氏(バイオマス丹波篠山) 足立伸也氏(ナチュラルバックヤード)
11:00-11:30	(会議室)	材の活用方法について説明	足立伸也氏(ナチュラルバックヤード) 施設長
11:30-11:45		材の流通事情についての説明	
11:45-12:00	丹波篠山木の駅に移動		
12:00-13:45	丹波篠山木の駅	昼食(バーベキュー予定) 木の駅の見学と説明 八百材舎の取り組み説明	バイオマス丹波篠山スタッフ 高橋隆治氏(バイオマス丹波篠山) 内田圭介(八百材舎)
13:45-14:00	西紀運動公園に移動		
14:00-14:45	西紀運動公園	森の学び舎の取り組み説明 二次林の視察(現状と課題)	寺本わかば氏(森の学び舎)
14:45-15:00	monoileに移動		
15:00-16:00	monoile	木材資源の活用事例について説明 木材利用ニーズについての説明 意見交換会	吉竹宏泰氏(monoile) 足立伸也氏(ナチュラルバックヤード)
16:00-16:50	JR篠山口駅に移動		
17:00	JR篠山口駅解散		
18:00	神戸・三ノ宮解散		

2) 各視察先報告

- 丹波の森公苑（案内人：土井英樹氏）

まず丹波地域の山林の特徴や森公苑が有している森や自然資源の概要の説明、次に人工林ゾーンに移動し、現状や課題、きらめき間伐の活動事例などを説明いただいた。森公苑内で森の整備に携わる人手が足りず、間伐が遅れ下層植生が乏しい、木の根張りが弱く倒木がみられなどの問題は、日本の森林の現状の縮図だという話が印象的であった。実際に森に入って聞く話は参加者にとってイメージが付きやすかったように思われる。



- 丹波林産振興センター（案内人：西脇誠氏、高橋隆治氏、足立伸也氏）

原木市場で競りの現場を見学。競りで値段がついていく様子を目の当たりにし、木材価格の低さに衝撃をうける参加者が多かったようである。林業従事者が置かれている現状の深刻さを実感すると同時に、既存の価格設定や流通システムにとらわれず、新しい価値の見出し方や流通のやり方の必要性を考えさせられる内容であった。



● 丹波篠山市木の駅（案内人：高橋隆治氏、内田圭介氏）

木の駅にて、一般市民が伐採、搬出できる仕組み、木材利用(ペレット、薪への加工)の説明、さらに新たな商品価値の創出、販売の形として八百材舎の取り組みを紹介した。一般市民でも、市場への搬出じゃなくても、山に入って木を切ることで収益を得ることができる事例を伝えた。昼食はシカ肉の BBQ としし鍋で里山の恵みを味わい、木質燃料の利用を体験した。



- 西紀運動公園山林部分（案内人：寺本わかば氏）

周辺地域住民だけでなく、若い世代や都市部の市民の参加を募り、山林整備を行いながら森づくりや森林資源、空間の利用について学ぶ場を企画する森の学び舎の活動地を見学。昨年の夏まで手つかずの山林だったが、芝刈りを行い道や広場ができ、過ごしやすい森になった様子を、森を歩きながら説明した。現在の活動の課題も伝え、今後の展開について参加者からの意見も数々出された。



● monoile cafe (案内人：吉竹宏泰氏、足立伸也氏)

木製のおもちゃや家具、雑貨をつくる吉竹さんと足立さんに、製品を供給する側の現状や二人が感じる市場ニーズについてお話しいただいた。これまでは価値が低いとされてきた材でも、作り手や消費者が新しい価値を生み出している動きがあり、柔軟に山林資源の魅力を発見し、活用法をつくっていくのが大事だというお話は、川上、川中の現状を見学してきたうえで、とても説得力を持っていたように思われる。最後に参加者一人一人から感想を話してもらった。一般市民からは、森林や木材流通における現場の様子がわかりにくいいため、距離を感じてしまう。しかし今回のツアーのように現場に足を運び、現場の人の話を聞き、意見を交換し合う機会は、森林や木材利用について身近に考える重要なきっかけとなると感じた。



3) アンケート結果

①満足度 平均 4.25 (5段階評価)

②参加理由

- ・ 里山について、いろんな業界の視点から知りたい
- ・ 林業の流れに興味があり、近年の状況を知りたかった
- ・ 地域の里山づくりの参考になれば
- ・ 内田さんからの誘いで
- ・ バスで楽にいろんなところを見学できるから
- ・ BBQ が低価格
- ・ 里山育成研修会でツアーのことを知って
- ・ 八百材舎を通じて
- ・ 個人では入れない場所に行ける、現場を直接見ることができる
- ・ 素人でも遠足のように楽しみながら参加できそうだったから
- ・ 森林課からの誘い

③プログラムへの意見

- ・ 盛りだくさんのプログラムで勉強になった
- ・ 流れが把握しやすい全体構成だった
- ・ 横のつながりを感じるプログラムだった
- ・ バスの車内で次の見学地の説明があると現場での理解がしやすくなると思う
- ・ ワークショップや体験など、参加者がアウトプットを出せる内容も盛り込めたら
- ・ スムーズで楽しかった
- ・ 寒かったので、作業など体を動かすアクティビティがあったらいいな
- ・ 事前情報が少なかった
- ・ 山村と都市をつなげる事業の参考に
- ・ 間延びする時間があった

④感想

- ・ 里山から派生するさまざまな職業に携わる人の生き方を学べた
- ・ 競りで木材価格が低かったことにびっくりした
- ・ 木材は奥が深く、さまざまな問題を有していると知った
- ・ 木材価格の低さに驚き、川上のモノ作りがどう価値を創造していくかが重要だと感じた
- ・ 森林や木材にかかわるさまざまなフェーズの人々の横のつながりが大事だと感じた

- ・昼食のジビエに満足
- ・今後の自分たちの活動にヒントがもらえた
- ・山を守りたいと思ってもなかなかお金がついてこず、なかなか厳しいなと思った
- ・想像以上に林業が厳しいことを知った
- ・整備や木材利用において発想の転換が必要だと感じた

⑤今後の里山づくりへのかかわりについて

- ・里山づくりに地域の人々をどう関与させるかが課題だと思った
- ・これから身近な木を大切に使用、活用していきたい
- ・市場での木材価格が低い中で、地域の山林整備(人工林の間伐)をどう進めていくか、考えなおさなきゃいけないと思った
- ・地域の人が里山づくりにかかわれるようなきっかけや手助けをつくれるように取り組みたい
- ・楽しくかかわるのが一番だと感じた
- ・何らかの形でかかわりたいがどうしたらいいかわからない。かかわれる場がほしい。
- ・木材の使い方、価値の生み出し方を考える
- ・木の集積、利用促進の事業を進めていきたい
- ・街のニーズと山のニーズをつなげることで、若い人にかかわってもらうことに取り組んでいきたい